

# 旭市

チーム名 【チームオレンジ】
タイトル 【 認知症にやさしいまちづくりの歩み 】

## 1 自治体情報（令和6年12月1日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
62,058人	20,307人	32.72%	130.47K m <sup>2</sup>
旭市は こんなところ！	旭市は千葉県の北東部に位置し、南部は美しい弓状の九十九里浜に面し、北部には干潟八万石といわれる房総半島屈指の穀倉地帯となだらかな丘陵地帯である北総台地が広がっています。平均気温は15度と温暖な気候です。産業では施設園芸、畜産、稲作、露地野菜など盛んな農業をはじめ、水産業、工業などバランスよく成長しています。東総地域の中核都市として今後の発展が期待されます。		

## 2 活動の概要

開始時期	令和4年10月
実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他（                    ）
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界アルツハイマー月間における普及啓発活動</li> <li>・認知症高齢者等見守り声かけ模擬訓練</li> </ul>
活動頻度	不定期
参加費	-
運営財源	<input type="checkbox"/> 市町村からの委託 <input checked="" type="checkbox"/> 市町村からの補助 <input type="checkbox"/> 会費・参加費 <input type="checkbox"/> その他（            ） ※上記の財源 <input type="checkbox"/> 市町村一般財源 <input type="checkbox"/> 地域支援事業交付金 <input type="checkbox"/> その他（                    ）
メンバー構成	認知症サポーターステップアップ講座修了者（オレンジ協力員）、地域包括支援センター職員等
チームオレンジ コーディネーターの属性	認知症地域支援推進員
チームオレンジの類型 ※1	<input type="checkbox"/> 第1類型（共生志向の標準タイプ） <input type="checkbox"/> 第2類型（既存拠点活用タイプ） <input type="checkbox"/> 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） <input checked="" type="checkbox"/> その他
チームオレンジ三つの基本 について ※2	<input type="checkbox"/> 3つの基本を満たしている <input checked="" type="checkbox"/> 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

### 3 チームオレンジ結成までの流れと経過

認知症サポーターステップアップ講座修了者（オレンジ協力員）へ、認知症関連事業への参加を呼びかけ、活動が少しずつ広がった。

### 4 活動内容

#### 1. 世界アルツハイマー月間における普及啓発活動

市役所庁舎内に認知症の普及啓発のパネル展示を実施。当事者・家族、市民の声を集めた「認知症ひとつことメッセージ」を展示。

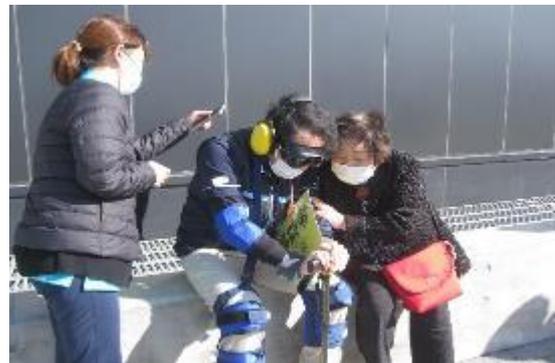


認知症テーマカラーのオレンジ色の飾りつけを、オレンジ協力さんと和気あいあいと作成しました。「こんな地域にしたいね。」と意見交換も弾みます。



#### 2. 旭市認知症高齢者等見守り声かけ模擬訓練

3度目の開催。市内のケアマネジャーや地域包括支援センター職員に加えオレンジ協力員も参加。認知症高齢者役への声かけ訓練、見守りシールの読み取り訓練を実施しました。



### 5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

オレンジ協力員が、活動に参加することが負担にならないように配慮した。

### 6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

時期：令和4年9月、令和5年7月の2回実施。

時間：合計4時間（2日に分けて実施）

講師：キャラバンメイト、千葉県認知症コーディネーター等

内容：市の認知症施策、チームオレンジについて、認知症サポーターの役割、認知症の理解、コミュニケーションの基本・実践（ロールプレイ・グループワーク）、地域でできること・サポーター活動を考える

## 7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

### <効果>

地域貢献の意欲があるオレンジ協力員が複数育成できた。

### <課題>

オレンジ協力員が定期的に集まり、活動する場が現段階でない。

## 8 チームのアピールポイント

「まずは自分のご近所から」と、認知症を自分事として考える心強いオレンジ協力員が地域の見守り活動や、心配な高齢者の情報提供などで力を発揮している。

## 9 今後の活動について

現在定期開催している本人ミーティングから、本人達の声を集めながら、旭市のチームオレンジ活動を展開していきたい。

# 習志野市

チーム名 【にこにこローズカフェ】
タイトル 【みんなの笑顔咲くカフェ】

## 1 自治体情報（令和6年1月1日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
175,162人	41,497人	23.7%	20.97K㎡
習志野市谷津圏域は こんなところ！ 人口：39,574人 高齢化率：19.6%	<p>習志野市は千葉県の北西部に位置し、東京から30キロメートル圏内にあり、谷津地区は東京よりの西側に位置しています。</p> <p>谷津圏域北側（奏の杜地区）にはJR津田沼駅があり、宅地開発によって高層マンションの建設が進み、都内などから転居してくる若い世代が多いのが特徴です。</p> <p>谷津圏域南側（谷津・谷津町地区）には京成線の谷津駅があり、昭和レトロでおしゃれな谷津商店街を抜けると、谷津干潟や谷津バラ園があり昔から地域の人々に親しまれています。バラ園入口の脇には「読売巨人軍発祥の地」の碑があり、バラの見頃である春と秋には多くの人でにぎわいます。</p>		

## 2 活動の概要

開始時期	令和4年
実施主体	<input type="checkbox"/> 市町村 <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input checked="" type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他（                      ）
活動内容	認知症カフェの開催、小学生向けの認知症サポーター養成講座、地域のイベントでの啓発活動
活動頻度	月1回
参加費	無料
運営財源	<input type="checkbox"/> 市町村からの委託 <input type="checkbox"/> 市町村からの補助 <input type="checkbox"/> 会費・参加費 <input checked="" type="checkbox"/> その他（社会福祉協議会） ※上記の財源 <input type="checkbox"/> 市町村一般財源 <input type="checkbox"/> 地域支援事業交付金 <input checked="" type="checkbox"/> その他（地域サロン助成金                      ）
メンバー構成	民生委員・児童委員 キャラバン・メイト 高齢者相談員 URコミュニティ 生活支援アドバイザー 介護サービス事業所職員 認知症の人の家族 傾聴ボランティア

チームオレンジ コーディネーターの属性	認知症地域支援推進員
チームオレンジの類型 ※1	<input type="checkbox"/> 第1類型（共生志向の標準タイプ） <input checked="" type="checkbox"/> 第2類型（既存拠点活用タイプ） <input type="checkbox"/> 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） <input type="checkbox"/> その他
チームオレンジ三つの基本 について ※2	<input checked="" type="checkbox"/> 3つの基本を満たしている <input type="checkbox"/> 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

### 3 チームオレンジ結成までの流れと経過

#### ■令和4年度

- ・第2層協議体で「つながるを止めないために、今、地域でできること」の実現に向けて話し合った結果、コロナ禍で認知症カフェが中断し、認知症の人や家族が地域で孤立している課題が抽出された。
- ・URコミュニティ・認知症地域支援推進員を中心とした協議体メンバーやキャラバン・メイトの有志でボランティアの会を発足、話し合いを重ね、まずはやってみようとして地域で認知症カフェの開催が決定。谷津の高齢者の笑顔を取り戻そう！との思いのもと「にこにこローズカフェ」と命名。
- ・ボランティアメンバーを中心に高齢者相談センター（地域包括支援センター）とURコミュニティと共催で1年間限定で「にこにこローズカフェ」を開催。（10月、12月、3月）

#### ■令和5年度

- ・URコミュニティの集会所で開催されている転倒予防体操の推進員を中心に地域のボランティアの方々が話し合って「にこにこローズカフェ」を社会福祉協議会の地域サロンとして継続することを決定。
- ・「認知症カフェ」の開催と同時に、転倒予防体操の推進員が民生委員を兼ねていたこともあり、地域の人の見守りを中心としたチームオレンジとしての活動を開始。

#### ■令和6年度

- ・年4回開催（3月、6月、9月、12月）。
- ・開催月以外の月はミーティングを行い前回の振り返り、次回の準備や情報共有を行った。

### 4 活動内容

#### ■認知症カフェ 「にこにこローズカフェ」

- ・カフェは年4回開催。カフェの前月の月は振り返りやカフェの準備を行いながら参加されたご本人や家族の反応を共有し、参加者に楽しんでもらえるカフェをみんなで目指している。

#### ■認知症の啓発活動

- ・夏休みにはカフェのメンバーでもあるURコミュニティのアドバイザー企画のキッズ向けのサポーター養成講座を開催。キャラバン・メイトは認知症サポーター養成講座の講師としても活躍。
- ・地域の商店街の秋祭りでは、こども向けの啓発活動で使う折り紙を地域の高齢者と一緒に作成。

（写真は次のページ）

## 認知症カフェ



話し合いの様子

地域の秋祭り

小学生向け認知症  
サポーター養成講座

### 5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

- ・「にこにこローズカフェ」の開催にあたりスタッフ全員で認知症カフェの特徴と効果を共有。開始時のスタッフは全員サポーター養成講座受講者であるが、今後は新たにスタッフとして活動して下さる方にも講座の受講をすすめ、認知症についての理解を深める。
- ・カフェの翌月は振り返りの会を開催し、「自己紹介で自分の事をみんなに話せたことが嬉しかった」「自分で作った作品を自宅に飾り嬉しそうに見せてくれた」など、本人や家族の感想を共有し次回以降に活かしている。
- ・季節を感じられる創作活動や地域の方の特技を披露するプログラムなどカフェの内容は、みんなで話し合いながら決定し、地域を巻き込んだ楽しい会を目指している。(短冊の笹は〇〇さんの家からもらおう！秋祭りの踊りは地域のサークルの〇〇に頼もう！クリスマスは〇〇サークルに本格的な演奏を披露してもらおう！)など楽しい企画満載。
- ・一人ではカフェに参加できない方への声掛けや同行はスタッフや参加者で協力しながら支援。
- ・認知症カフェを開催する部屋の広さ的に、多数の参加者の受け入れが難しく、認知症の人や家族、地域で孤立している人などを優先せざる得ない状況で、地域の方に広く周知声掛けができない状況がある。

## 6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

・習志野市では基礎編・応用編を各1回開催。受講対象は認知症サポーター養成講座受講修了者。市内のキャラバン・メイトや市の職員等が講師となり、グループワークでは認知症地域支援推員がファシリテーター役を担っている。

### ■基礎編

認知症の理解を深める（講座）

認知症の人の理解と対応（グループワーク）

① どうしてこの行動をとってしまうの？ ② 認知症の人にとって大切なことは何？

### ■応用編

習志野市の認知症施策と取り組み

認知症の人とのコミュニケーション・接し方（演習・グループワーク）

① 効果的な挨拶をしてみましょう ② あなたの親しみやすさを伝えます ③ 事例会話で聞き上手を体験しましょう

## 7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

### <効果>

・民生委員等の強みを活かし、地域で気になる方や高齢者相談センターに相談があった方などをカフェにお誘いしている。

・参加者からの相談は認知症地域支援推進員が話を聞き、高齢者相談センターの職員と連携し介護保険につなげるなどの支援をしている。（コロナ禍で何年も家に閉じこもりになった方がカフェの参加を機にデイサービスにつながったケース等）

・参加者の特技や力に合わせ役割を持っていただいている。長年踊りを習っていたご本人にカフェで披露してもらったり、茶話会の配膳やテーブルふき等、ご本人ができることをやって頂いている。参加者からは「次回を楽しみにしている」との言葉が聞かれ、開始時の目的でもある高齢者が笑顔で過ごせる場となっている。

・認知症地域支援推進員がカフェ以外でも地域で社会参加できる機会を持てるよう、ご本人のニーズに合ったサークルやイベントを紹介し、必要時には速やかに高齢者相談センターとの連携を図っている。

### <課題>

・認知症のご本人がチームの一員として参加し、本人のやりたいことをチームで実現すること。

## 8 チームのアピールポイント

・「にこにこローズカフェ」は、認知症のご本人、家族、地域の高齢者の笑顔を大切にしています。

・キャラバン・メイト、民生委員・児童委員、高齢者相談員等の地域福祉のキーパーソンを中心としたチームメンバーで構成されておりチームワークは抜群、準備段階からいつも楽しくにぎやかに地域を巻き込みながら活動しています。

## 9 今後の活動について

「にこにこローズカフェ」を拠点に、アルツハイマー月間の普及啓発活動、ご本人のやりたいこと実現に向けての活動など、チームメンバーと一緒に検討する。

# 柏市

チーム名 【かしわオレンジフレンズ】
タイトル 【認知症にやさしいまち柏を目指して】

## 1 自治体情報（令和6年10月1日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
437,390人	113,757人	26.01%	114.74K m <sup>2</sup>
柏市は こんなところ！	<p>千葉県の北西部に位置し、都心から電車で30分程度の距離にあり、首都圏の代表的なベッドタウンとして昭和30年頃から人口が増加し発展したまちです。また、市北部には、つくばエクスプレスの開通による新たなまち、柏の葉キャンパスがうまれています。</p> <p>様々なお店と商業施設が軒を連ねる柏駅周辺から、少し離れるとあけぼの山公園や手賀沼など自然が豊かで、利便性と自然の両方が共存している地域です。</p>		

## 2 活動の概要

開始時期	平成29年4月～
実施主体	<input type="checkbox"/> 市町村 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input checked="" type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他（                      ）
活動内容	認知症カフェ、介護者交流会、オレンジ散歩、オレンジフレンズ交流会、見守りパトロール
活動頻度	2回/年～2回/月 ※登録する地域包括支援センターによる
参加費	概ね無料
運営財源	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村からの委託 <input checked="" type="checkbox"/> 市町村からの補助 <input checked="" type="checkbox"/> 会費・参加費 <input type="checkbox"/> その他（                      ） ※上記の財源 <input type="checkbox"/> 市町村一般財源 <input type="checkbox"/> 地域支援事業交付金 <input type="checkbox"/> その他（                      ）
メンバー構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かしわオレンジフレンズ(認知症サポーター養成講座修了者)</li> <li>・認知症地域支援推進員</li> <li>・本人</li> <li>・介護者</li> </ul>
チームオレンジ コーディネーターの属性	認知症地域支援推進員
チームオレンジの類型 ※1	<input checked="" type="checkbox"/> 第1類型（共生志向の標準タイプ） <input type="checkbox"/> 第2類型（既存拠点活用タイプ）

	<input type="checkbox"/> 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） <input type="checkbox"/> その他
チームオレンジ三つの基本について ※2	<input type="checkbox"/> 3つの基本を満たしている <input checked="" type="checkbox"/> 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

### 3 チームオレンジ結成までの流れと経過

認知症サポーター養成講座を受講者のうち、ボランティアなど認知症の理解に向けた普及啓発活動を希望するかたを「かしわオレンジフレンズ」として、地域包括支援センターに登録。

現在は12か所ある地域包括支援センターにそれぞれチームオレンジがあり、オレンジフレンズは希望する活動に申し込み、ボランティア活動に参加している。

また、ボランティア活動だけではなく、オレンジフレンズ交流会やフォローアップ研修会などで認知症の人への対応などを学び合う機会も設けている。

### 4 活動内容

- 認知症カフェ（ホッとカフェ）での当事者の見守り、付き添い、声掛け
- 認知症介護者交流会での相互交流や補助
- オレンジ散歩での誘導
- オレンジパトウォーク（気になる方の住む地域をパトロール）
- 認知症サポーター養成講座での補助
- アルツハイマー月間での認知症啓発イベント参加



## 5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

- かしわオレンジフレンズが自身の居住地を所管する地域包括支援センターに登録することで、気軽に活動できるような仕組みとした。
- NPO や自主グループは地域包括支援センターと連携して活動しているので、地域包括支援センターを介して自分たちの活動をかしわオレンジフレンズに紹介することができ、認知症に携わる人材の循環が生まれている。
- 認知症カフェや介護者交流会などの情報をホームページに掲載する他、かしわオレンジフレンズ活動補償保険に加入により、活動を後押ししている。

## 6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

開催状況：年1回、参集とオンライン(Zoom)のハイブリット形式で実施。

令和6年度の講座内容

【講義】①「アルツハイマー型認知症の治療と投薬管理」

②認知症本人及び介護者へのインタビュー動画視聴

【内容】①北柏リハビリ総合病院認知症疾患医療センター所属の認知症専門医より最新の認知症の種類、症状、治療についての講義。

②市内の認知症本人及び家族介護者へのインタビュー動画を視聴及び柏市の認知症の状況や施策、今後の方向性について行政担当者より説明。

## 7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

認知症カフェや介護者交流会などに参加された本人や家族がオレンジフレンズと顔なじみになり、地域で行われる別の活動にも声を掛け合っている姿も見られる。認知症本人にとっても、介護サービス以外での地域とのつながりが出来ることで、社会参加の機会となっている。

<課題>

- 地域包括支援センターによって活動内容や活動頻度の取り組みにバラつきがある。かしわオレンジフレンズの高齢化や前期高齢者の就労促進等により、ボランティア活動の先細りが懸念される。

## 8 チームのアピールポイント

かしわオレンジフレンズは、自身の居住地を管轄する地域包括支援センターに登録することで、自らが住む地域で気軽に参加できるようになっている。また、同じ地域に住む認知症のかたやご家族と普段からボランティア活動をとおして顔の見える関係になれることで、認知症になっても住み慣れた地域で暮らせるよう、地域でゆるやかに見守る体制づくりにつながっている。

## 9 今後の活動について

現在実施している活動を引き続き実施し、より多くのかたが参加できるよう、認知症本人や家族が集える環境づくりをオレンジフレンズとともに、また認知症本人や家族の声も聴きながら企画・開催していく。

行政支援としては、増え行く認知症のかたとともに生活していける地域づくりにむけて、オレンジフレンズのかたが地域を引っ張っていく存在であることを日々の活動をとおして呼びかけていくとともに、フレンズのかたの存在が認知症本人や家族にとってどういった影響があるのかも研修会や交流会の際に伝えながらオレンジフレンズ活動の活発化を目指す。

# 八千代市

チーム名 【サロン愛宕MORE】
タイトル 【地域での繋がりと支え合いを続けていくために】

## 1 自治体情報（令和6年9月30日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
206,540人	51,154人	24.8%	51.39K㎡
八千代市は こんなところ！	<p>千葉県北西部に位置した市で、市の北側は、緑豊かな自然があります。南側は、森を残し、緑の景観に配慮した市街地が形成されています。市の中央には八千代市のシンボル「新川」が南北に悠々と流れ、釣りや散歩などが楽しめる場所となっています。また、1万株のバラが咲き誇る京成バラ園、新川の両岸に咲く千本桜や20万株以上の彼岸花など四季折々の花が楽しめるまちです。</p> <p>一方で、京成本線と東葉高速線の2つの鉄道が走り、首都30キロ圏の位置と都心へのアクセスの良さや、商業施設が多く、日常生活に必要なものが市内揃うため、生活しやすく便利なまちです。</p>		

## 2 活動の概要

開始時期	令和5年6月
実施主体	<input type="checkbox"/> 市町村 <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input checked="" type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他（                    ）
活動内容	毎回テーマを変え活動（コグニサイズ・制作活動） お茶やコーヒー、お菓子などを楽しみながらカフェスタイルで開催
活動頻度	月に1回
参加費	100円
運営財源	<input type="checkbox"/> 市町村からの委託 <input type="checkbox"/> 市町村からの補助 <input checked="" type="checkbox"/> 会費・参加費 <input type="checkbox"/> その他（                    ） ※上記の財源 <input type="checkbox"/> 市町村一般財源 <input type="checkbox"/> 地域支援事業交付金 <input type="checkbox"/> その他（                    ）
メンバー構成	認知症当事者、地域住民、医療・介護関係職員、民生委員 社会福祉協議会、福祉委員
チームオレンジ コーディネーターの属性	認知症地域支援推進員

<p>チームオレンジの類型 ※1</p>	<p><input type="checkbox"/>第1類型（共生志向の標準タイプ）  <input checked="" type="checkbox"/>第2類型（既存拠点活用タイプ）  <input type="checkbox"/>第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ）  <input type="checkbox"/>その他</p>
<p>チームオレンジ三つの基本 について ※2</p>	<p><input type="checkbox"/>3つの基本を満たしている  <input checked="" type="checkbox"/>3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている</p>

### 3 チームオレンジ結成までの流れと経過

「やちよ元気体操」のサークル仲間と同じ地域の中で助け合い、いつまでも自宅で生活できるようにしたいという思いからスタートする。  
 重度認知症の母を看取った者やちょっと気になる一人暮らしの友人が居る、ゴミ出しのトラブルなど認知症への地域理解の必要性を強く感じ、毎週月曜日に開催している介護予防サロンのうち、第二月曜日はオレンジカフェとして開催することになった。

### 4 活動内容

認知症サポーター養成講座・体操や脳トレなど、毎回包括職員からの提案を貰いながらテーマを決め開催している。  
 地域包括支援センター・地域内高齢者施設の職員も参加しているため、介護全般のお悩みや相談なども行っている。



**サロン愛宕**  
 1月  
 毎週月曜日  
 午後1時30分～午後3時30分  
 愛宕公会堂にて  
 参加費 100円（お茶菓子代）

やちよ元気体操・認知症予防の  
 1. 認知症予防 2. 脳トレ  
 3. 体操のほか、脳トレ・ランニング・  
 ジョギング・けんすい・ボウリング・ビリヤード  
 なども行っています！  
 季節行事も楽しんでいます！

月に一度は、**サロン愛宕 MORE**  
 八千代台地域包括支援センターをはじめ、地域の高齢者施設の専門  
 職の皆さんがおみえになります！  
 認知症予防、介護全般のお悩み相談など、カフェスタイルで  
 お持ちしています～

**1月20日（月）**  
 「コグニサイズ」を楽しみましょう～  
 体を動かし、「脳トレ」しましょう～

予約不要 当日のお越しをお待ちしています。

お問い合わせ  
 070-1401-8066 保城



## 5 活動を進めていく上で工夫したこと・配慮したこと

- ・ 広報手段として、毎月テーマの紹介をチラシにし配布・貼り出し、参加者が声掛けをしている。
- ・ 認知症の方には、参加者の方がフォローに入り一緒に活動を楽しまれている。

## 6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

地域で認知症カフェとして運営しているグループの運営者向けにステップアップ講座を開催。

開催時間：3時間

講師：認知症地域支援推進員（地域包括支援センター職員）

内容：認知症の基礎知識、認知症ケアの基本、コミュニケーションの基礎と実践、地域でのサポーター活動について

## 7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

地域内での知り合いが増えた。

地域包括支援センターや地域内高齢者福祉施設が身近に感じられるようになる。

お互い様の気持ちで助け合っていこうという空気になってきた。

<課題>

参加者が積極的に手伝ってくれているが、スタッフの人数を少し増やしたい。

80代から90代の参加者が多いため、60代の参加者を発掘したい。

男性参加者が参加しやすくするために、興味・関心が持てる内容を検討したい。

## 8 チームのアピールポイント

縁があって知り合った人たちとの居場所です。これからもこの会を大切にしていきたいです。

## 9 今後の活動について

認知症についての研修や地域包括支援センター・地域内高齢者福祉施設の協力を得て、これからも活動継続していきたい。

# 我孫子市

チーム名 【チーム〇 <sup>まる</sup> 】
タイトル 【認知症になっても安心して暮らせるまち あびこの実現を目指して】

## 1 自治体情報（令和7年1月1日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
131,317人	40,417人	30.8%	43.15 K㎡
我孫子市は こんなところ！	<p>我孫子市は、千葉県の北西部に位置し、東に印西市、南と西は手賀沼を隔て柏市があり、北は利根川をはさんで、茨城県取手市・北相馬郡利根町と隣接し、手賀沼と利根川にはさまれた細長い馬の背状の土地となっています。都心から約40キロメートル、常磐線で35分の近距離にあることから、首都圏へ通勤する人々の住宅地としての役割がおおきくなっています。</p> <p>手賀沼の水辺に広がる美しい景観、四季折々の彩りが豊かな自然、そして多くの文人や芸術家が愛した歴史と文化が今も息づき、心も身体もリフレッシュできるまちです。</p>		

## 2 活動の概要

開始時期	令和6年6月～
実施主体	<input type="checkbox"/> 市町村 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input checked="" type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他（                      ）
活動内容	日常生活における見守り、日常の困りごとへの対応、関係機関への連絡など、地域包括ケア会議によるチーム員同士の連携、情報共有
活動頻度	適宜
参加費	なし
運営財源	<input type="checkbox"/> 市町村からの委託 <input type="checkbox"/> 市町村からの補助 <input type="checkbox"/> 会費・参加費 <input type="checkbox"/> その他（                      ） ※上記の財源 <input type="checkbox"/> 市町村一般財源 <input type="checkbox"/> 地域支援事業交付金 <input type="checkbox"/> その他（                      ）
メンバー構成	地域包括支援センター職員、ケアマネ、弁護士、通所介護職員、訪問介護職員、配食サービス職員、自費サービス職員、地区社協職員、近隣住民、民生委員、警察官、郵便局員、病院職員、知人

チームオレンジ コーディネーターの属性	認知症地域支援推進員
チームオレンジの類型 ※1	<input type="checkbox"/> 第1類型（共生志向の標準タイプ） <input type="checkbox"/> 第2類型（既存拠点活用タイプ） <input checked="" type="checkbox"/> 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） <input type="checkbox"/> その他
チームオレンジ三つの基本 について ※2	<input type="checkbox"/> 3つの基本を満たしている <input checked="" type="checkbox"/> 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

### 3 チームオレンジ結成までの流れと経過

1人暮らしで、ほぼ身寄りなし。近所から、自他ともに認める変わり者と呼ばれていた〇さん。認知症が進行し、生活の様々な場面に困難さが出てきた。「〇さんらしい生き方を応援する」という約束から始まった、〇さんへの支援。問題を1つずつ一緒に考える中で、さまざまな支援者がチームの一員となった。チーム員は、介護や福祉の関係者だけでなく、後見人、銀行、郵便局、近所のスーパー、警察、地区社協、便利屋さん、配食、そして民生委員や地域のお隣さんと多様なものとなった。年に2回、地域包括ケア会議を開催し、認知症の理解、チームとして顔の見える関係づくりを進めた。

「認知症で1人暮らしでも、自宅で生活していいんですね」「最初はなぜ施設に行かないんだと思ってたけど、今は〇さんのこと応援してるよ」と、地域の意識が少しずつ変容するきっかけとなっている。

### 4 活動内容

- ・日常生活における見守り、日常の困りごとへの対応、関係機関への連絡など
- ・地域包括ケア会議によるチーム員同士の連携・情報共有
- ・RUN 伴あびこへの参加



### 5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

- ・特に初期のころなど、チームメンバーから連絡があった際には、その場に出向くなどしてメンバーの困りごとと一緒に対応した。

## 6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

開催状況：年度1回2時間、参集形式で実施。

令和6年度の講座の概要

【講師】地域包括支援センター職員、市役所職員

【内容】認知症サポーター養成講座の振り返り

認知症の人の家族の気持ち、認知症の人へのかかわり方について

認知症の人の声を聴く

若年性認知症とは

認知症の人の意思決定支援

チームオレンジとは

緊急時の対応

個人情報取り扱いについて

グループワーク

(①認知症の方に関わるとしたら何ができるか、②認知症の方達に対して地域に必要なものは何か)

## 7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

- ・住み慣れた地域で住み続けることができる見守り体制の構築
- ・認知症の人本人とのかかわりを通して、チームメンバーが古い認知症観から「認知症になってからも、住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることができる」という考え方に変わった。

<課題>

- ・個別課題を地域全体の課題としてとらえ、地域での活動を継続していきたい。

## 8 チームのアピールポイント

- ・様々な立場の方がおり、それぞれがご本人との忘れられないエピソードがある。それをチームメンバーで共有し活動に活かしている。

## 9 今後の活動について

個別課題を地域全体の課題としてとらえ、〇さんがつないだこのチームが、今後も地域に根づくチームとなるよう活動を続けていきたい。

# 鎌ヶ谷市

チーム名 【 チームオレンジ 】
タイトル 【 同じ住宅団地のサロンで認知症の方を支え合う事例】

## 1 自治体情報（令和6年9月30日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
109,629人	31,230人	28.49%	21.08平方K㎡
鎌ヶ谷市は こんなところ！	<p>鎌ヶ谷市は千葉県の北西部、北総台地のなだらかな緑の大地の上に広がる都市です。</p> <p>市内には、東武野田線・新京成線・北総線・成田スカイアクセス線の鉄道4線と道路網が発達しており、都心から25キロメートル圏内にあることから、首都近郊の住宅都市として発展してきました。</p> <p>一方、こうした発展の中にありながら、豊かな農地や緑の環境を持ち、梨の名産地としても全国にその名を知られています。</p>		

## 2 活動の概要

開始時期	令和4年1月
実施主体	<input type="checkbox"/> 市町村 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input checked="" type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input checked="" type="checkbox"/> その他（認知症カフェ、認知症地域支援推進員）
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロバのマスコット作りを通じて、ご本人・ご家族の居場所作りをする</li> <li>・地域のイベントに参加し認知症普及啓発活動を行う</li> </ul>
活動頻度	月1回程度、地域のイベントに関しては随時参加
参加費	なし
運営財源	<input type="checkbox"/> 市町村からの委託 <input type="checkbox"/> 市町村からの補助 <input type="checkbox"/> 会費・参加費 <input checked="" type="checkbox"/> その他（      ） ※上記の財源 <input type="checkbox"/> 市町村一般財源 <input type="checkbox"/> 地域支援事業交付金 <input checked="" type="checkbox"/> その他（      ）
メンバー構成	ステップアップ講座受講者（オレンジサポート員）、住民、認知症の本人、地域包括支援センター職員、認知症地域支援推進員、医療・介護関係職員
チームオレンジ コーディネーターの属性	
チームオレンジの類型 ※1	<input type="checkbox"/> 第1類型（共生志向の標準タイプ） <input checked="" type="checkbox"/> 第2類型（既存拠点活用タイプ） <input type="checkbox"/> 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） <input type="checkbox"/> その他

### 3 チームオレンジ結成までの流れと経過

令和4年1月に新たにオレンジサポート員となった方が住む築40年を超える住宅団地を中心に、コロナ禍中の閉じこもりがちな生活と、交通の便が悪い立地条件などを踏まえて、歩いて少人数で通える場所（サポート員の自宅）でロバのマスコット作りをスタート。『登下校する小学生のランドセルにロバのマスコットをつけてもらうのが夢』と言うメンバーの言葉に、認知症地域支援推進員が関係者への周知活動をサポートし、輪が広がる。活動拠点も住宅団地内にある市の事業の高齢者の交流の場である老人憩いの家の集会室に移り、毎月1回の定期活動化と日頃の自宅での作成活動にも発展。時には認知症の方や介護者も参加される機会もあり、近隣施設や地域のスポーツ団体の監督から材料の寄贈や、管理事務所の方が一緒にロバを作ってくださいることもあり、周囲の理解や協力も広がり出している。

また、別の地区のオレンジサポート員と認知症地域支援推進員が認知症カフェの開催時間に集まりロバを作り、交流の輪を広げて普及・啓蒙活動を行っている。また、ロバ以外にも拠点によって、「認知症マフ」を作成しているところもあり、各拠点で特色が出てきている。

### 4 活動内容

ロバ、認知症マフ作り等をきっかけとして定期的に集まり、認知症の普及啓発活動を行う。地域で認知症のような症状がある方、または認知症の本人を誘って一緒に制作をすることで、地域の輪を広げて顔の見える関係づくりを行う。多職種がメンバーになることで、困りごとがあった際に必要な支援に繋げることができる体制を作る。

作成したロバは認知症サポーター養成講座を受講した小学生や高齢者と関わりのある民生委員等にお渡しし、身に付けていただくことで認知症の普及啓発活動や見守りをしていただいている。

認知症マフに関しては、市の事業や地域包括支援センターのイベント等で希望者に配布している。

カフェを活動拠点としているオレンジサポート員はカフェのイベントに参加しながら、認知症の本人・その家族の話を傾聴し、一緒にロバ作りを楽しんで交流を行い、地域に根差した関係づくりを行っている。

令和7年1月現在、活動拠点が5か所に増えて、交流の場として定着しつつある。また、地域のイベントに参加し、認知症に関するクイズラリーや作ったロバをお渡しして外部発信を行っている。

活動拠点によっては、自分たちの地区で地域包括支援センターと協力し、家族交流会を開催している。

北中コミセンロバづくり



これはベース ロバづくり



認サポ GH 理事会



## 5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

住民の主体的な活動とペースを尊重し、ロバを作ることだけが目的にならないように、認知症地域支援推進員と一緒に参加し、普及・啓発活動を行った。

活動拠点や外部との交流が増えたことで、認知症普及啓発と離れた方向にいってしまう可能性があり、中心となるメンバーが軸となる認知症の人への理解や交流の場、地域作りの考えを持って活動していただくようにしていかなければならない。また、ひとつのことに執着し過ぎると次の活動に繋がっていかないというデメリットもあるため、様々な人の意見を取り組み、講座を行う等の活動にも広げていくことも配慮している。

野菜カフェ 見守り応援団

認サポ GH 管理組合

小学校認サポマスコット寄贈メッセージ



## 6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

年度に1回2時間ステップアップ講座を市庁舎内で開催している。

<講座内容>

- ・キャラバン・メイトによる認知症サポーター養成講座の復習
- ・認知症サポート医の講義 かかりつけ主治医との関係づくり、認知症の方の体調管理の大切さ
- ・社会福祉協議会職員より「ボランティアについての心得」
- ・市・認知症施策担当より「他市事例紹介とオレンジサポート員活動発表」
- ・グループワーク（「こんな活動していただけますか」「こんな活動ならできるかも」）

## 7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

活動拠点が増えることで、今まで行けなかった方々にも足を運んでいただき交流の場として広がりつつある。地域のイベントに参加することで幅広い年齢層の方々にも認知症の普及啓発活動が行えている。

<課題>

オレンジサポート員が自主性を持って活動してもらうにはどうしたらよいか。活動拠点が広がったが、各地域での特色を活かした活動に繋げるにはどのようにしたらよいかという課題がある

## 8 チームのアピールポイント

ロバ作りに参加されているチーム員、住民、認知症の本人・その家族の何気ない言葉から個別の課題、地域の課題、新しい活動ができるようにしている。

参加者が話しやすい環境をすること、じっくりと信頼関係を作ること、全員で活動しているという意識を持ち、小さなことからコツコツと行っている。オレンジサポート員の意見として、ひとりでは活動するのは難しい、不安があるという方が多いが、チームとしてなら活動できるサポート員は多く、実績を積んでいくことで認知症の本人・家族との交流や地域づくり活動に自信をつけてもらっている。自分たちが行っている活動を少しずつ外部に発信できてきているため、実感を持って活動している。

## 9 今後の活動について

認知症の人・その家族、地域との交流を深めていく。活動を外部発信し、地域のイベントに足を運ぶことで地域づくりをおこなっていく。

各地区での特色を活かした活動にしていく。

The image displays four promotional posters for dementia-friendly activities. The first three posters are for 'Dementia-friendly community making' (認知症にやさしいまちづくり) and feature photos of people making robots. The fourth poster is a survey titled 'Do you know someone with dementia?' (認知症がもしれない人とどうやってお話しする?).

**Posters 1-3: Dementia-friendly community making**

- Poster 1 (Green border):** Focuses on making robots. Text includes: '楽しく作りだせば、認知症の方の安心も増えるよ。' (If you make it happily, the confidence of people with dementia will increase.) and '認知症にやさしいまちづくり' (Dementia-friendly community making).
- Poster 2 (Yellow border):** Focuses on making robots. Text includes: '認知症にやさしいまちづくり' (Dementia-friendly community making) and '認知症の方の安心も増えるよ。' (The confidence of people with dementia will increase.)
- Poster 3 (Blue border):** Focuses on making robots. Text includes: '認知症にやさしいまちづくり' (Dementia-friendly community making) and '認知症の方の安心も増えるよ。' (The confidence of people with dementia will increase.)

**Poster 4: Survey**

**認知症がもしれない人とどうやってお話しする?**

① 場所は ( )  
 ② ( ) から準備が早い  
 ③ 認知症の話題は ( ) で  
 ④ 認知症に ( ) とした話し方で話す  
 ( ) を使って行きたい  
 ⑤ 認知症 ( ) がある方で話し口調で話す  
 ⑥ 認知症の話題に気を付けて ( ) 話す

おでははるものを記入しましょう!

ア 名前 イ 年齢 ウ 性別 エ 職業  
 フーはのり フーは人で トーは年齢

当日は認知症の話題は?  
 (1) (2) (3)  
 (4) (5) (6) (7) すべて

お住まい ( ) 市

認知症サポート員 02-481-1379

# 君津市

チーム名 【すなみほっとサロン】
タイトル 【ほっと一息ついてほとな気持ちになれるような時間をすごせる場】

## 1 自治体情報（令和6年11月30日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
79,608 人	26,858 人	33.7%	318.78K m <sup>2</sup>
君津市は こんなところ！	房総半島のほぼ中央部に位置する君津市は、千葉県内で2番目に大きな面積を有しています。東京湾に面する北西部には、日本最大手の鉄鋼メーカーが操業し、JR君津駅を中心に自然と共生した住宅街が建ち並んでいます。南東へと延びる内陸部には、房総丘陵の大自然が広がっており、四季折々の景色を楽しむことができます。高速バスやJRの在来線などの公共交通網が整っており、東京湾アクアラインを使うと都心から約60分でアクセスできます。		

## 2 活動の概要

開始時期	令和6年10月
実施主体	<input type="checkbox"/> 市町村 <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input checked="" type="checkbox"/> その他（公民館・住民有志）
活動内容	情報交換、ミニ講座、お楽しみタイム等
活動頻度	第3金曜日 13:30~2時間程度
参加費	100円
運営財源	<input type="checkbox"/> 市町村からの委託 <input type="checkbox"/> 市町村からの補助 <input checked="" type="checkbox"/> 会費・参加費 <input type="checkbox"/> その他（      ） ※上記の財源 <input type="checkbox"/> 市町村一般財源 <input type="checkbox"/> 地域支援事業交付金 <input type="checkbox"/> その他（      ）
メンバー構成	主催：すなみほっとサロン運営委員会 （住民有志・周南公民館） ステップアップ講座修了者10名 ・認知症の人とその家族      ・地域住民
チームオレンジ コーディネーターの属性	地域包括支援室職員
チームオレンジの類型 ※1	<input type="checkbox"/> 第1類型（共生志向の標準タイプ） <input checked="" type="checkbox"/> 第2類型（既存拠点活用タイプ） <input type="checkbox"/> 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） <input type="checkbox"/> その他

チームオレンジ三つの基本  
について ※2

■3つの基本を満たしている

□3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

### 3 チームオレンジ結成までの流れと経過

認知症カフェとして活動している団体にチームオレンジの制度の紹介をし、連携を呼びかけた。既に認知症カフェとして活動している団体だったため、チームオレンジという枠組みが活動を阻害しないようにチームオレンジについての丁寧な説明を心がけた。団体の活動は変わらず、市内の包括とお互いに相談しやすい関係づくりを構築することを目指し、チーム結成に至った。

令和6年2月に認知症サポーターステップアップ講座を開催、チームオレンジについての説明をし、市内包括支援センターとの連携をしていく運びとなった。

### 4 活動内容



(トイレットペーパー積み競争)

(ハーモニカ演奏)

認知症カフェとして毎月第三金曜日にちょっとためになるミニ講座やお楽しみタイム等を行っている。参加者同士で情報交換をしたり、ほっと一息つけたりする時間を過ごしている。

### 5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

認知症カフェとしてこれまでの活動は変わらないよう配慮した。

### 6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

令和6年2月にステップアップ講座1回目を実施。

内容：チームオレンジについて、チームオレンジとして市内包括との連携、相談しやすい関係づくりのお願いをした。

希望に応じて認知症についての理解を深める講座を実施していく。

## 7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

### <効果>

行政や包括に相談しやすくなった。

認知症の方が活動の場を求めたときに紹介する場ができた。

### <課題>

活動団体との連携を維持するために、定期的な顔合わせの場が必要となってくると思われる。

## 8 チームのアピールポイント

専門家のお話や「お楽しみ」も交えながら、ほっと一息ついて、ほっとな気持ちになれるような時間をすごせる場。

認知症のご家族やご本人、介護されている方、関心のある方が気兼ねなく参加でき、認知症や健康、介護などお互いに情報交換する会です。

## 9 今後の活動について

認知症の方が地域で活動できる場として支援していく。

# 富津市①

チーム名 【岩坂お助けクラブ】
タイトル 【近所で助け合い・できることを行っていく】

## 1 自治体情報（令和6年11月末現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
40,466人	16,112人	39.8%	205.4K㎡
富津市は こんなところ！	富津市は、房総半島の中西部東京湾側に位置し、南北40kmに及ぶ海岸線と、緑豊かな鹿野山や、切り立った崖の鋸山など、海や山に囲まれた自然豊かなところです。東京湾に突出した富津岬は、関東の天の橋立と言われ、南房総国定公園にもなっています。潮干狩りや海水浴、ハイキングなどで多くの皆さんに楽しんでいただいています。		

## 2 活動の概要

開始時期	令和3年4月
実施主体	<input type="checkbox"/> 市町村 <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input checked="" type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他（                      ）
活動内容	住民主体の助け合い
活動頻度	毎週水曜日（富津市いきいき百歳体操後に構成員でミーティング）。助け合いは依頼による
参加費	支援内容により異なる
運営財源	<input type="checkbox"/> 市町村からの委託 <input checked="" type="checkbox"/> 市町村からの補助 <input type="checkbox"/> 会費・参加費 <input type="checkbox"/> その他（                      ） ※上記の財源 <input type="checkbox"/> 市町村一般財源 <input checked="" type="checkbox"/> 地域支援事業交付金 <input type="checkbox"/> その他（                      ）
メンバー構成	岩坂地区の住民ボランティア（老人クラブの会員または富津市いきいき百歳体操の有志から構成）
チームオレンジ コーディネーターの属性	コーディネーターの設置なし
チームオレンジの類型 ※1	<input type="checkbox"/> 第1類型（共生志向の標準タイプ） <input checked="" type="checkbox"/> 第2類型（既存拠点活用タイプ） <input type="checkbox"/> 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） <input type="checkbox"/> その他
チームオレンジ三つの基本 について ※2	<input checked="" type="checkbox"/> 3つの基本を満たしている <input type="checkbox"/> 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

### 3 チームオレンジ結成までの流れと経過

令和3年4月に住民主体による助け合いサービスを開始し、地域の見守り等を行っていた。認知症の当事者の対応等について認知症地域支援推進員に相談があり、この団体を支援していた生活支援コーディネーターと一緒に訪問し、支援の様子を見守っていた。根気よく活動を続け顔なじみとなり、訪問すると困りごとなども話せるようになる。

### 4 活動内容

訪問による日常生活支援サービス。高齢者の自宅において、ごみ出しや除草作業、外出の付き添いなど日常生活の困りごとに対する生活支援。

### 5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

メンバー同士が悩みや相談等をアドバイスし合える雰囲気作りに取り組んでいる。

### 6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

年1回開催。認知症のふり返り。ステップアップ講座について。認知症の方への接し方について。チームオレンジの説明。

### 7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

閉じこもりとなっていた認知症当事者と散歩を継続しているうちに顔なじみとなり、チームと一緒に活動している。

<課題>

チーム員の高齢化。

### 8 チームのアピールポイント

できることをお手伝いしていく。

### 9 今後の活動について

メンバーを増やしていきたい。

# 富津市②

チーム名 【飯野すみれ会】
タイトル 【お互い様を忘れず、住み慣れた地域でいきいきと】

## 1 自治体情報（令和6年11月末現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
40,466人	16,112人	39.8%	205.4K m <sup>2</sup>
富津市は こんなところ！	富津市は、房総半島の中西部東京湾側に位置し、南北40kmに及ぶ海岸線と、緑豊かな鹿野山や、切り立った崖の鋸山など、海や山に囲まれた自然豊かなところです。東京湾に突出した富津岬は、関東の天の橋立と言われ、南房総国立公園にもなっています。潮干狩りや海水浴、ハイキングなどで多くの皆さんに楽しんでいただいています。		

## 2 活動の概要

開始時期	令和3年6月28日
実施主体	<input type="checkbox"/> 市町村 <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input checked="" type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他（                      ）
活動内容	いきいき貯筋体操、認知機能向上のための脳活性化トレーニング、防災や認知症等に関する外部講師を招いての講演、ボッチャ等
活動頻度	毎週水曜日
参加費	0円
運営財源	<input type="checkbox"/> 市町村からの委託 <input checked="" type="checkbox"/> 市町村からの補助 <input type="checkbox"/> 会費・参加費 <input type="checkbox"/> その他（                      ） ※上記の財源 <input type="checkbox"/> 市町村一般財源 <input checked="" type="checkbox"/> 地域支援事業交付金 <input type="checkbox"/> その他（                      ）
メンバー構成	認知症サポーター 認知症フォローアップ研修修了者
チームオレンジ コーディネーターの属性	コーディネーターの設置なし
チームオレンジの類型 ※1	<input type="checkbox"/> 第1類型（共生志向の標準タイプ） <input checked="" type="checkbox"/> 第2類型（既存拠点活用タイプ） <input type="checkbox"/> 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） <input type="checkbox"/> その他
チームオレンジ三つの基本 について ※2	<input type="checkbox"/> 3つの基本を満たしている <input checked="" type="checkbox"/> 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

### 3 チームオレンジ結成までの流れと経過

令和6年1月31日、認知症ステップアップ研修を11名の認知症サポーター・活動している方々に向け行った。

### 4 活動内容

- ・現在一人暮らしの方の見守りや、お互いさまという気持ちで、自分の買い物のついでに買い物の手助けをしている。
- ・運動教室等に行きたいが移動手段のない人を、車に乗せて一緒に参加したりしている。

### 5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

安心して参加できる環境作り・居場所と思える雰囲気作りをしている。

### 6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

今年度の開催は年に1回

内容：チームオレンジについて(具体的活動について)

体力・知力で地域と交流

### 7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

- ・認知症の理解が進んだ

<課題>

- ・認知症になったら何もできなくなってしまうという考えが見られている。
- ・活動内容を具体化。

### 8 チームのアピールポイント

認知症の本人や家族の思いを大切に、お互いさまの気持ちを忘れず、チームオレンジのメンバーも楽しみながら活動を行う。

### 9 今後の活動について

週1回、歌に合わせた筋力アップ体操(いきいき貯筋体操)を行いながら、集い、活動をする。認知症の人も地域の仲間の1人として、一緒に活動できる環境づくりを行っていく。

# 印西市①

チーム名 【チームオレンジ あおぞら会】
タイトル 【 みんなで行う運動と得意を生かしたロバマスコットづくり 】

## 1 自治体情報（令和6年4月1日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
111,109人	26,947人	24.3%	123.8K m <sup>2</sup>
印西市は こんなところ！	周囲を利根川、印旛沼、手賀沼に囲まれた自然豊かな地域でありながら、JR成田線・北総線沿では市街地化が進み、子育て世代の転入も多くなっています。市のシンボルはコスモス。大型商業施設も複数あり、都市機能と自然の調和がとれたまちです。		

## 2 活動の概要

開始時期	令和5年3月
実施主体	<input type="checkbox"/> 市町村 <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input checked="" type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他（                      ）
活動内容	ちょきん運動の実施・ロバマスコットづくり
活動頻度	週1回
参加費	0円
運営財源	<input type="checkbox"/> 市町村からの委託 <input type="checkbox"/> 市町村からの補助 <input type="checkbox"/> 会費・参加費 <input type="checkbox"/> その他（                      ） ※上記の財源 <input type="checkbox"/> 市町村一般財源 <input type="checkbox"/> 地域支援事業交付金 <input checked="" type="checkbox"/> その他（                      ）
メンバー構成	認知症サポーター（ステップアップ講座修了生）
チームオレンジ コーディネーターの属性	設置なし
チームオレンジの類型 ※1	<input type="checkbox"/> 第1類型（共生志向の標準タイプ） <input checked="" type="checkbox"/> 第2類型（既存拠点活用タイプ） <input type="checkbox"/> 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） <input type="checkbox"/> その他
チームオレンジ三つの基本 について ※2	<input checked="" type="checkbox"/> 3つの基本を満たしている <input type="checkbox"/> 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

### 3 チームオレンジ結成までの流れと経過

健康づくりと地域づくりを目的として住民主体で活動していた「いんざい健康ちょきん運動 あおぞら会」のメンバーは、すでに認知症の当事者を支援しながら、ともに活動を行っていたため、サポーター養成講座及びステップアップ講座を受講してもらい、チームオレンジとした。

### 4 活動内容

当事者と支援者がともに、週1回のいんざい健康ちょきん運動を行っている。当事者の方を他の参加者が活動日に迎えに行ったりしながら、ともに活動が続けられるように支援している。また、裁縫が得意な参加者が、認知症キャラバンのロバのマスコットを手作りしてくれており、アルツハイマーデーやメモリーウォークなどのイベントで配布し、認知症支援の啓発に活用されている。アルツハイマーデーイベント（主催：日医大千葉北総病院、後援：印西市）では、来館者が参加できるクラフトコーナーにてマスコットづくり等のボランティアとしてご協力いただいた。



### 5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

新しく何かを始めるといよりは、これまで行ってきた活動を続け、自然な形で当事者参加支援が続けられるようお願いした。

### 6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

講師：認知症疾患医療センターの看護師

内容：認知症を理解して効果的な関わり方を知る

### 7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

ロバのマスコットづくりを行うことが、チームオレンジとして認知症支援を広めていく役割をもっていることを感じる機会となっている。

### 8 チームのアピールポイント

チームオレンジとなる前から、当事者ととともに活動をつづけており、認知症の人がいるのが当たり前空間となっており、お互いが自然に支え合える関係性ができている。

### 9 今後の活動について

ロバづくり等を含め、これまで同様に活動を継続してもらいながら、チームオレンジとしてできることを考えていく。また、多世代が集うグループであるため、たくさんの世代が交流できる活動を考えていきたい。

# 印西市②

チーム名 【チームオレンジ コロネード健康クラブ】
タイトル 【 みんなでいっしょに いんざい健康ちょきん運動！ 】

## 1 自治体情報（令和6年4月1日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
111,109人	26,947人	24.3%	123.8K m <sup>2</sup>
印西市は こんなところ！	周囲を利根川、印旛沼、手賀沼に囲まれた自然豊かな地域でありながら、JR成田線・北総線沿では市街地化が進み、子育て世代の転入も多くなっています。市のシンボルはコスモス。大型商業施設も複数あり、都市機能と自然の調和がとれたまちです。		

## 2 活動の概要

開始時期	令和5年5月
実施主体	<input type="checkbox"/> 市町村 <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input checked="" type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他（                      ）
活動内容	ちょきん運動の実施
活動頻度	週1回
参加費	0円
運営財源	<input type="checkbox"/> 市町村からの委託 <input type="checkbox"/> 市町村からの補助 <input type="checkbox"/> 会費・参加費 <input type="checkbox"/> その他（                      ） ※上記の財源 <input type="checkbox"/> 市町村一般財源 <input type="checkbox"/> 地域支援事業交付金 <input checked="" type="checkbox"/> その他（                      ）
メンバー構成	認知症サポーター（ステップアップ講座修了生）
チームオレンジ コーディネーターの属性	設置なし
チームオレンジの類型 ※1	<input type="checkbox"/> 第1類型（共生志向の標準タイプ） <input checked="" type="checkbox"/> 第2類型（既存拠点活用タイプ） <input type="checkbox"/> 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） <input type="checkbox"/> その他
チームオレンジ三つの基本 について ※2	<input checked="" type="checkbox"/> 3つの基本を満たしている <input type="checkbox"/> 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

### 3 チームオレンジ結成までの流れと経過

健康づくりと地域づくりを目的として住民主体で活動していた「コロネード健康クラブ」のメンバーは、以前から認知症の当事者を支援しながらともに活動を行っていた。サポーター養成講座はすでに受講済みであったため、ステップアップ講座を受講してもらい、チームオレンジとした。

### 4 活動内容

当事者と支援者がともに、週1回のいんざい健康ちょきん運動を行っている。同じマンション内のグループであるため、当事者の方を他の参加者が活動日に迎えに行ったりしながら、活動が続けられるように支援している。

### 5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

新しく何かを始めるといよりは、これまで行ってきたちょきん運動の活動を続け、自然な形で当事者参加支援が続けられるようお願いした。

### 6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

講師：認知症疾患医療センターの看護師

内容：認知症を理解して効果的な関わり方を知る

### 7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

当事者ととともに活動を続けることで、認知症になっても安心して参加できる場があることを意識でき、お互いが自然に支えあえる関係性ができている。

<課題>

当事者の参加を支援しようとしても、家族の理解が得られずうまくいかないことがあった。理解が得られない家族への対応について、共に考え支援していく体制が必要と思われる。

### 8 チームのアピールポイント

チームオレンジとなる前から、当事者ととともに活動をつづけており、認知症の人がいるのが当たり前空間となっており、お互いが自然に支え合える関係性ができている。

### 9 今後の活動について

今後、年を重ねる中で当事者が来られなくなることも想定されるが、現在の参加者に認知機能の低下がおきた時や、認知症の方が新たに加入した時等においても、これまでと同じく、ともに活動できるような場とできるように、フォローアップ研修の機会等を持ちながら活動していく。

# 白井市

チーム名 【一】
タイトル 【本人・家族とともに住み慣れた地域で楽しいひとときを！】

## 1 自治体情報（令和6年4月1日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
62,280人	17,789人	28.6%	35.48K㎡
白井市は こんなところ！	都心までのアクセスの良さから東京のベッドタウンとして千葉ニュータウンとともに発展してきました。 百年以上の歴史のある「しろいの梨」が特産で、未来のジョッキーが集まるJRA競馬学校もあるなど、自然豊かな街です。		

## 2 活動の概要

開始時期	2018年
実施主体	<input type="checkbox"/> 市町村 <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input checked="" type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他（ ）
活動内容	①認知症カフェの開催 ②見守り訪問活動
活動頻度	①市内2か所 各2回/月開催 ②ケースに対し、2回/月程度の訪問
参加費	無料
運営財源	<input type="checkbox"/> 市町村からの委託 <input type="checkbox"/> 市町村からの補助 <input type="checkbox"/> 会費・参加費 <input type="checkbox"/> その他（ ） ※上記の財源 <input type="checkbox"/> 市町村一般財源 <input type="checkbox"/> 地域支援事業交付金 <input checked="" type="checkbox"/> その他（白井市社会福祉協議会の補助金を活用）
メンバー構成	認知症の本人、家族、認知症パートナー（ステップアップ講座修了者）、地域包括支援センター職員など
チームオレンジ コーディネーターの属性	コーディネーター設置なし
チームオレンジの類型 ※1	<input type="checkbox"/> 第1類型（共生志向の標準タイプ） <input type="checkbox"/> 第2類型（既存拠点活用タイプ） <input checked="" type="checkbox"/> 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） <input type="checkbox"/> その他
チームオレンジ三つの基本 について ※2	<input checked="" type="checkbox"/> 3つの基本を満たしている <input type="checkbox"/> 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

### 3 チームオレンジ結成までの流れと経過

認知症サポーターのうち、ステップアップ講座を受講した者が、認知症の本人とその家族、多職種の地域サポーターと協力しながら、早期からの継続支援を実施してきた経緯があり、それらの活動を「チームオレンジ」としての活動に位置づけることとした。

### 4 活動内容

#### ①認知症カフェの運営

ステップアップ講座終了者が認知症カフェを運営しており、本人や家族の要望を聞きながら内容等を工夫して実施している。

#### ②見守り訪問活動

見守り訪問活動の利用の際に、本人・家族・みまもりコーディネーター・担当地区の地域包括支援センター・訪問活動を実施するボランティアで、本人の希望などを共有する機会を設けている。

### 5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

活動を実施するボランティアから、取り組みに関する相談を受けるなど、各地域の地域包括支援センターが後方支援を行う体制をとっている。

### 6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

#### 〔開催状況〕

年1回 認知症パートナー養成講座として市がステップアップ講座を開催。

#### 〔講座内容〕

- ・認知症パートナーの必要性和役割の理解
- ・認知症の人への接し方
- ・地域に必要な社会資源を考える
- ・高齢者の特徴（身体面・精神面）について学ぶ

### 7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

#### <効果>

見守り活動を通して認知症の本人や家族と認知症パートナーとの関係性が深まり、認知症カフェへの来所につながるなど、認知症の本人の社会参加が促され、本人の楽しみや生きがいができるなどの効果があった。

#### <課題>

- ・チームオレンジの活動の中で得られた認知症の本人や家族の意向や思いを反映した活動を広げ、施策等に反映させていく必要がある。
- ・活動を行っている認知症パートナーの高齢化と新たな担い手の不足。

### 8 チームのアピールポイント

認知症の本人や家族の意向や思いを大切に、チームオレンジのメンバー皆が楽しめる活動を実施している。

## 9 今後の活動について

今後も、認知症の本人や家族の意向や思いを反映した活動を広げ、認知症パートナーとして活動する仲間が増えるよう活動の周知を行うとともに、認知症基本法や国の基本計画に定められている「新たな認知症観」の周知や認知症の人も地域の仲間として一緒に活動する環境づくりを進めていく。

# 香取市

チーム名 【 香取オレンジ会 】
タイトル 【認知症の人が安心して暮らせる地域づくり】

## 1 自治体情報（令和6年4月1日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
70,243人	26,965人	38.39%	262.3K㎡
香取市は こんなところ！	<p>千葉県北東部に位置し、北部は利根川流域の水田地帯、南部は北総台地の一角を占め、山林や畑が広がる地域です。</p> <p>東国三社の一つ「香取神宮」、日本初の実測日本地図を作成した偉人「伊能忠敬」が有名です。</p>		

## 2 活動の概要

開始時期	令和4年12月
実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input checked="" type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他（                    ）
活動内容	各自の所属団体での見守り・声かけ、アルツハイマー月間啓発活動へ参加、カフェのお手伝い、研修会参加
活動頻度	各自の所属団体での継続した活動 啓発・カフェ・研修開催時
参加費	0円
運営財源	<input type="checkbox"/> 市町村からの委託 <input type="checkbox"/> 市町村からの補助 <input type="checkbox"/> 会費・参加費 <input type="checkbox"/> その他（                    ） ※上記の財源 <input type="checkbox"/> 市町村一般財源 <input checked="" type="checkbox"/> 地域支援事業交付金（研修会） <input checked="" type="checkbox"/> その他（所属団体の財源）
メンバー構成	本人、家族、認知症地域支援推進員、キャラバンメイト 認知症サポーター・ステップアップ研修受講者 認知症初期集中支援チーム員、認知症家族会 認知症カフェ、グループホーム職員、小多機職員
チームオレンジ コーディネーターの属性	地域包括支援センター職員（認知症地域支援推進員）
チームオレンジの類型 ※1	<input type="checkbox"/> 第1類型（共生志向の標準タイプ） <input checked="" type="checkbox"/> 第2類型（既存拠点活用タイプ） <input type="checkbox"/> 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） <input type="checkbox"/> その他

### 3 チームオレンジ結成までの流れと経過

チームオレンジ設置前から認知症予防や地域での活動等を行っている既存の団体に対し、令和4年度に認知症サポーター・ステップアップ研修会を開催し、香取オレンジ会を結成に至った。

### 4 活動内容

1) 各団体の特徴を活かし、地域において集いの場（サロンやカフェ）の定期的な開催、認知症予防、見守り・声かけ、話し相手、情報提供を実施。

2) 認知症の啓発

- ・ 9月世界アルツハイマー月間の展示物作成
- ・ チーム員主導による月間中のイベントの企画、開催、協力



【通いの場の参加者とともに制作（一部掲載）】



- 【イベントの様子】認知症かるた、高校生サポーターの縁日等（一部掲載）
- ・ 認知症のシンボルカラーであるオレンジ色の花を育てる。認知症について考え、当事者や家族も取り組むことでふれあうきっかけとなる。

3) 認知症カフェのお手伝い

4) 認知症家族のつどいの開催

5) 香取オレンジ会研修会への参加

## 5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

研修会において、市の認知症の取組みを知り、香取オレンジ会の実際の活動内容や今後できそうなこと等を話し合い、学びを深めるとともに情報共有することで、意識向上や更なる活動の推進につながるような構成とし、取組は各自が自発的に行えるよう、はたらきかけをしている。

## 6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

- ・開催回数：年1回
- ・内容：市の認知症の取組みについて知る、認知症の知識や適切な接し方の振り返り、徘徊高齢者等見守りシール交付事業について啓発、チームオレンジについて

## 7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>認知症に対する理解が深まり、賛同者が増えた。研修会において、寸劇等の動きを取り入れるとリアリティ感があり、声掛けや対応について、気づきや学びを深められた。他の団体の活動を知ることで、新たな発見が得られ、意欲向上、活動の推進につながっている。

<課題>当事者を含む新規メンバーの獲得と、受入れ体制の整備のため、市内機関と情報共有し、活動を広げるための検討を行う。

## 8 チームのアピールポイント

普段から顔の見える関係を意識して取組み、認知症になっても住み慣れた地域で暮らせるよう、地域全体で見守る体制づくりにつながっている。

## 9 今後の活動について

- ・認知症の啓発活動を継続する。
- ・当事者の「やってみたいこと」を取り入れ、当事者や家族を含めみんなと一緒に楽しめるイベントや居場所づくりにつなげていく。
- ・見守り声かけ訓練の開催を検討する。

# 山武市

チーム名 【さんむオレンジチーム】
タイトル 【認知症サポーターステップアップ勉強会】

## 1 自治体情報（令和6年12月1日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
47,784人	18,023人	37.7%	146.77K m <sup>2</sup>
山武市は こんなところ！	海と緑に囲まれた山武市は、千葉県の北東部に位置し、都心から約60Km圏内、県都千葉市や成田国際空港まで約18Kmの距離にあります。総面積に占める田畑や山林の面積が6割にのぼる一方、東側約8Kmを日本有数の砂浜海岸である九十九里浜と接しています。標高40~50mの丘陵地帯には、特産の山武杉に代表される山林が存在し、海岸部にある6カ所の海水浴場は県内外からの海水浴客でにぎわっています。		

## 2 活動の概要

開始時期	令和4年4月
実施主体	<input type="checkbox"/> 市町村 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他（                      ）
活動内容	チームオレンジとして活動するための勉強会や市の認知症啓発活動を共に行っている。
活動頻度	月1回
参加費	無料
運営財源	<input type="checkbox"/> 市町村からの委託 <input type="checkbox"/> 市町村からの補助 <input type="checkbox"/> 会費・参加費 <input checked="" type="checkbox"/> その他（活動に必要な物品は市が購入） ※上記の財源 <input type="checkbox"/> 市町村一般財源 <input checked="" type="checkbox"/> 地域支援事業交付金 <input type="checkbox"/> その他（                      ）
メンバー構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市役所 直営地域包括支援センター2名</li> <li>・委託地域包括支援センター3名</li> <li>・社会福祉協議会2名</li> <li>・認知症サポーターステップアップ講座を受講した市民</li> </ul>

チームオレンジ コーディネーターの属性	委託地域包括支援センター職員2名（チームオレンジコーディネーター）
チームオレンジの種類 ※1	<input type="checkbox"/> 第1類型（共生志向の標準タイプ） <input type="checkbox"/> 第2類型（既存拠点活用タイプ） <input type="checkbox"/> 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） <input checked="" type="checkbox"/> その他
チームオレンジ三つの基本 について ※2	<input type="checkbox"/> 3つの基本を満たしている <input checked="" type="checkbox"/> 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

### 3 チームオレンジ結成までの流れと経過

・令和4年4月から毎月1回認知症サポーターステップアップ受講者勉強会を行い、チームオレンジとなる活動について話し合いを重ねてきた。

### 4 活動内容

・令和4年3月に認知症サポーターステップアップ講座を実施、参加者の中でチームオレンジになるための勉強会に参加希望者を募った。以降、毎年認知症サポーターステップアップ講座の時にさんむオレンジチーム員の募集をしている。

・令和4年4月から毎月1回チームオレンジになるための認知症サポーターステップアップ受講者勉強会を行う。

・認知症啓発活動として世界アルツハイマー月間の展示や認知症カフェ、映画上映会、認知症サポーター養成講座において、さんむオレンジチームの紹介を行った。

### 5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

・勉強会ではチーム員同士で活発な意見が出され、よりよいさんむオレンジチームの活動が展開されている。今後はチームが主体的に活動できるようにしていくことが目標である。

### 6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

年に1回開催。過去に認知症サポーター養成講座を受講した方を対象に、認知症の理解をさらに深めるとともに、今後チームオレンジとして活動するために必要な知識、対応スキル等の習得を目的に開催。

#### 【令和5年度の講座内容】

- ・講座の目的について
- ・チームオレンジ、さんむオレンジチームの説明
- ・認知症の基礎知識、認知症の人を理解するための基礎知識
- ・グループワーク（地域で活動するために自分たちができること）

## 7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

### <効果>

・さんむオレンジチームで毎月1回話し合いをし、チーム員がお互いに認知症介護の経験や地域での活動支援について話し合うことで、今後どのような活動が必要か考えるようになった。

### <課題>

- ・チーム員からリーダーとなる方がでて、チームが主体的に活動できる。
- ・認知症カフェを他2か所でも立ち上げたい。

## 8 チームのアピールポイント

・チーム員の認知症介護経験者が対応方法や悩みについて相談でき、お互い活発な意見交換からさんむオレンジチームの活動にも発展している。

## 9 今後の活動について

- ・「さんむオレンジチーム」の市民メンバーが中心となり、拠点となる場所や活動を主体的に展開していけるように支援していきたい。
- ・今後、認知症の人だけではなく、子どもから高齢者までさまざまな世代の人たちが集まり交流ができ、みんなで支え合える場所をつくりたい。

# 大網白里市

チーム名 【チームオレンジ大網白里 ♀】
タイトル 【 あんとんねえさ～ 】

## 1 自治体情報（令和6年12月1日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
47,675人	16,585人	34.8%	58.08K m <sup>2</sup>
大網白里市は こんなところ！	東京都心から50～60キロメートル圏域に位置し九十九里平野のほぼ中央にあります。西は緑豊かな丘陵部、東は白砂青松の海岸部という特色ある豊かな自然を持つ風土を有しています。		

## 2 活動の概要

開始時期	令和5年2月
実施主体	<input type="checkbox"/> 市町村 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括支援センター（直営） <input checked="" type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他（                      ）
活動内容	認知症カフェの運営、見守り・傾聴訪問等
活動頻度	月1回（見守り訪問はチーム員の都合による）
参加費	無料
運営財源	<input type="checkbox"/> 市町村からの委託 <input type="checkbox"/> 市町村からの補助 <input type="checkbox"/> 会費・参加費 <input checked="" type="checkbox"/> その他（市直営） ※上記の財源 <input type="checkbox"/> 市町村一般財源 <input checked="" type="checkbox"/> 地域支援事業交付金 <input type="checkbox"/> その他（                      ）
メンバー構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症サポーター</li> <li>・認知症サポーターステップアップ講座受講者</li> <li>・認知症当事者</li> </ul>
チームオレンジ コーディネーターの属性	地域包括支援センター職員（認知症地域支援推進員）
チームオレンジの類型 ※1	<input type="checkbox"/> 第1類型（共生志向の標準タイプ） <input checked="" type="checkbox"/> 第2類型（既存拠点活用タイプ） <input type="checkbox"/> 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） <input type="checkbox"/> その他
チームオレンジ三つの基本 について ※2	<input checked="" type="checkbox"/> 3つの基本を満たしている <input type="checkbox"/> 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

### 3 チームオレンジ結成までの流れと経過

令和4年度に認知症サポーターステップアップ講座を開催し、講座終了後チームオレンジへの参加希望者を募り結成した。令和5年度も同講座を開催し新たなメンバーが加入し、令和6年度から認知症サポーター養成講座のアンケートにチームオレンジの記載欄を設け、参加希望者を募り適宜活動に案内している。

### 4 活動内容

- ・あったかスペースモクセイ（認知症カフェ）の運営、内容（イベント）の企画
- ・認知症高齢者宅への訪問、話し相手等
- ・世界アルツハイマー月間の展示物の製作



（写真左） あったかスペースモクセイの様子。参加者は話をすることを毎回楽しみにして来られています。また季節の催しでは小学生が遊びに来たりと、始まって一年半とまだ日は浅いですが地域の人に認知されはじめ、多世代が交流する憩いの場になっています☆

（写真右） 世界アルツハイマー月間の取組み市役所ロビーで認知症の方が描いた絵画の紹介、ロバ隊長の顔抜きパネルや塗り絵、チームオレンジメンバーとモクセイの参加者で書いた寄せ書きなどを掲示し啓発を行いました。来庁された方は足を止め眺めており、顔抜きパネルの記念撮影も大好評でした！



### 5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

チームオレンジを立ち上げた当時、市内に認知症カフェがなかったため、あったかスペースモクセイを立ち上げ活動拠点とした。当事者も運営に参加し始め、チーム員が主体性をもって活動できるよう配慮している。

### 6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

開催状況：認知症サポーター養成講座受講者を対象に年1回の頻度で開催。

講座内容：認知症の理解を深める、認知症の人とのコミュニケーション・対応方法（パーソンセンタードケア、グループワーク）、チームオレンジの紹介、市の現状と認知症施策の説明

## 7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

### <効果>

- ・あったかスペースモクセイ終了後、振り返りや今後の企画について話し合うことでチームに一体感が出てきている。
- ・地域の中でチームオレンジが認識されるようになってきている。

### <課題>

- ・あったかスペースモクセイ以外の活動の充実。

## 8 チームのアピールポイント

メンバーは様々な立場の方がおり、それぞれの多様な考え方をチーム内で共有しその意見を活動に反映している。チームの雰囲気やメンバー間の仲も良く和気あいあいと運営している。

## 9 今後の活動について

- ・認知症の本人や家族等の参加者がつながりを持ち「ここに来てよかった」とあったかい気持ちになれるカフェ(居場所)にしていきたい。
- ・チーム員からリーダーを選出し事務局との役割を分担したため、負担にならないよう配慮する。

# 芝山町

チーム名 【チームしばっこ】
タイトル 【 みんなの居場所「しばっこカフェ」 】

## 1 自治体情報（令和6年12月1日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
6,660人	2,450人	36.79%	43.24 K m <sup>2</sup>
芝山町は こんなところ！	千葉県北東部に位置し、日本の玄関である成田国際空港に隣接しているため、至るところで飛行機の姿が目に入り、おのずと空を見上げてしまいます。町の面積の大半を農地が占め、四季折々の野菜や花々など自然豊かであり、埴輪をはじめ数多くの遺物が発掘され古代の趣を感じられる町です。		

## 2 活動の概要

開始時期	令和4年7月
実施主体	<input type="checkbox"/> 市町村 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他（                      ）
活動内容	認知症カフェの運営
活動頻度	毎月1回
参加費	100円
運営財源	<input type="checkbox"/> 市町村からの委託 <input checked="" type="checkbox"/> 市町村からの補助 <input type="checkbox"/> 会費・参加費 <input type="checkbox"/> その他（                      ） ※上記の財源 <input type="checkbox"/> 市町村一般財源 <input checked="" type="checkbox"/> 地域支援事業交付金 <input type="checkbox"/> その他（                      ）
メンバー構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症サポーターステップアップ講座修了者</li> <li>・居宅介護支援事業所のケアマネジャー</li> <li>・地域包括支援センター職員（認知症地域支援推進員）</li> </ul>
チームオレンジ コーディネーターの属性	地域包括支援センター（認知症地域支援推進員）
チームオレンジの類型 ※1	<input type="checkbox"/> 第1類型（共生志向の標準タイプ） <input checked="" type="checkbox"/> 第2類型（既存拠点活用タイプ） <input type="checkbox"/> 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） <input type="checkbox"/> その他
チームオレンジ三つの基本 について ※2	<input type="checkbox"/> 3つの基本を満たしている <input checked="" type="checkbox"/> 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

### 3 チームオレンジ結成までの流れと経過

- ・認知症サポーター受講者の中から、カフェでボランティアとして活動してくれる方を集った。数名の方がボランティアとして活動してくれることになり、認知症の方の居場所づくり、認知症の方を介護する家族の支えとなるように地域の方々が集まれる場所として、平成31年4月 認知症カフェ「しばっこカフェ」を開設した。
- ・認知症サポーター養成講座を受講したカフェのボランティアに、認知症サポーターステップアップ講座を受講してもらい、令和4年6月「チームしばっこ」が結成された。

### 4 活動内容

- ・毎月1回の認知症カフェの運営、受付をし、茶菓子を出している。対話をメインとし、折り紙、トランプ、脳トレプリントなど参加者がやりたいことに取り組んでもらう。カフェの終わり頃には、全員で笑いヨガや歌を歌う。
- ・近所の方に認知症カフェへの参加の声掛け



しばっこカフェ 笑いヨガの様子

### 5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

- ・活動意欲が低下しないよう、定期的にメンバー同士で話し合いの機会を持ち気持ちを盛り立てあげている。
- ・カフェ参加者が1人にならないように、ボランティアが声をかけている。また毎回同じボランティアが話し相手にならないようにしている。
- ・3～4か月に1回、認知症カフェの日程を広報に掲載している。

### 6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

#### 3回に分けて講座を実施

- ・1回目（講義）：認知症についての基礎知識の復習。認知症の人との接し方について。
- ・2回目（施設実習）：グループホームへ行き、利用者と交流を図る。
- ・3回目（講義）講義：チームオレンジ・町の認知症施策について。施設実習で感じたこと、今後どのように活動していくか。

## 7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

### <効果>

- ・ボランティアは、カフェの参加者に楽しく過ごせるように声かけ等をしてきている。また本人のやりたいことができるように支援してくれている。
- ・ボランティア自身の生きがいづくりになっている。
- ・認知症と診断がついていなくても、認知症疑いの方やMCIの方などがカフェで把握することができている。

### <課題>

- ・活動が月1回のみとなっている。
- ・地域包括支援センターが運営主体となっているので、チームしばっこのメンバーが主体的に活動できるように体制整備する。
- ・体調不良等の理由で活動を辞めるボランティアが出てきているので、新たなボランティアの発掘が課題。

## 8 チームのアピールポイント

- ・「地域のために貢献したい」と意欲あふれるチーム。カフェではチーム員の見守りのもと、自分のやりたいことに取り組めるので、楽しいひと時が過ごせている。
- ・チーム員全員、オレンジ色のエプロンを着用するため、一目でチームメンバーが分かる。

## 9 今後の活動について

- ・住民だけでなく職域からの認知症サポーターを増やし、認知症に理解のある人を増やしていきたい。
- ・家族が認知症カフェ等の活動に誘いたくとも、本人が拒否し繋がらないケースもある。現在、チームオレンジメンバーによる訪問は実施していないが、どのように支援できるか検討していきたい。

# 御宿町

チーム名 【 御宿町介護予防サポーター 】
タイトル 【 チームオレンジおんじゅく 】

## 1 自治体情報（令和6年4月1日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
6,961人	3,641人	52.3%	24.85K m <sup>2</sup>
御宿町は こんなところ！	高齢化率が千葉県内でNo.1となっています。 保健師を中心に町全体で健康づくりに取り組み、「健康寿命の延伸」「認定率の抑制」に取り組んでいます。		

## 2 活動の概要

開始時期	2022年9月～
実施主体	<input type="checkbox"/> 市町村 <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input checked="" type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他（                      ）
活動内容	地域巡回での介護予防教室 「いつ、どこ、だれ」の3つの「でも」をキーワードに “認知症の人”の各種事業への参加を推進するため、実施者、参加者共に分け隔てなく認知症の方やその家族等を迎え入れています。
活動頻度	不定期
参加費	無料
運営財源	<input type="checkbox"/> 市町村からの委託 <input type="checkbox"/> 市町村からの補助 <input type="checkbox"/> 会費・参加費 <input type="checkbox"/> その他（                      ） ※上記の財源 <input type="checkbox"/> 市町村一般財源 <input checked="" type="checkbox"/> 地域支援事業交付金（一部） <input type="checkbox"/> その他（                      ）
メンバー構成	町住民であって介護予防サポーター養成講座の修了者を中心に認知症サポーター及びそのステップアップ講座を修了した者。
チームオレンジ コーディネーターの属性	おんじゅく地域包括支援センター 保健師 認知症地域支援推進員
チームオレンジの類型 ※1	<input type="checkbox"/> 第1類型（共生志向の標準タイプ） <input checked="" type="checkbox"/> 第2類型（既存拠点活用タイプ） <input type="checkbox"/> 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） <input type="checkbox"/> その他

チームオレンジ三つの基本  
について ※2

3つの基本を満たしている  
3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

### 3 チームオレンジ結成までの流れと経過

認知症であって介護予防サポーターとして活動していた方もあったがカミングアウトまでは至らずに活動を続けてきた中で、その方以外のメンバーより認知症の診断を受けたとの相談を受けた。

新しいメンバーへのお話もされたとのことでその本人やお話を受けた方々にチームオレンジの活動内容を説明し広く診断を受けたことを公表せずに現在の活動の中により深く認知症に関する正しい知識を取り入れていくことに同意を得ることができた。

その後にはサポーター全体の集まりの中で「(かわいいバッチ)をもらおうよ！」との声かけを行い実施要領の説明を行い、定期開催していた介護予防サポータースキルアップ講座のカリキュラム内に認知症サポーターステップアップ講座の内容を盛り込みサポーターの皆さんに講座を受講いただき、「いつもの活動に」その方針や活動内を付け加えてもらった。

### 4 活動内容

介護予防サポーターが行う地域の巡回介護予防教室における活動においてチームオレンジ活動に関する考え方を取り入れて、これを実践するものである。

介護予防サポーターに対し以下のとおりその考え方を示しています。

御宿町介護予防サポーター【チームオレンジおんじゅく】活動の要領

(活動方針)

チームオレンジおんじゅくは、「いつ、どこ、だれ」の3つの「でも」をキーワードに“認知症の人”の各種事業への参加を推進します。

チーム員が伝え感じる楽しさが活動を通じて“認知症の人”にも感じていただけるよう活動しましょう。

このような活動の推進により、“認知症の人”も“これから認知症になってしまうかもしれない人”も活動への参加を促すことにより地域で「なじみの関係」を作ることができます。

「なじみの関係」は、地域での生活を続けるための安心感につながり認知症の発症遅延や進行予防につながります。

(活動内容)

認知症の人等にみなさんのチーム活動を紹介し誘いましょう。

認知症の方は、なるべく近くに住むチーム員と同じグループ活動ができるよう調整しましょう。また、参加するグループの変更ができるように柔軟に対応しチーム員相互の連携をお願いします。

活動を通じて認知症の人等やその家族の身近な困りごとを把握しましょう。

把握した困りごとはチーム員で共有しその解決方法を考えていきましょう。

## 5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

担い手不足である面をカバーするためいつもの活動への上乗せが出来るよう、まず実施されている事に対して実施者への理解を求め説明を行いました。そして普段の活動から認知症の方やその家族に対して広く受容できるようにステップアップ講座の履修内容に盛り込んだ。

## 6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

年1回程度

テキスト基本として、運動、栄養、口腔に関して認知症の方にある特徴に関して活動で配慮できるような内容を講座に盛り込み実施した。

## 7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

参加していた人が要介護状態となってこの活動から離れていってもチームオレンジメンバーやその卒業生が地域でその方を支え合い、なじみの隣人として活躍していることが聞こえてきた。

<課題>

この活動のみならずそれぞれの活動に付加価値を付け、様々な活動を実施しているがそれを担う者たちの次の世代にバトンが引継げるかどうか不安を感じている。

まだまだ受容する側が認知症の看板を掲げる活動へ参加することに対しての拒否感や抵抗感を感じている。

## 8 チームのアピールポイント

自由にはつらつと自らが楽しんで取り組んでいます。

## 9 今後の活動について

その実施形態等を地域の実情を考えて変化させながら、この活動ができる限り継続していけるように調整を行っていく。

# 木更津市①

チーム名 【チームオレンジ・カフェなみおか】
タイトル 【～認知症になっても共に暮らしていける地域を目指して～】

## 1 自治体情報（令和7年1月1日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
136,843人	37,820人	27.64%	138.90K m <sup>2</sup>
木更津市は こんなところ！	木更津市は房総半島中央部にあり、東京湾に面した千葉県の業務核都市です。東京湾アクアラインでの交通の便も良く、潮干狩りやアウトレットなど観光地としても有名です。温暖な気候で過ごしやすく、農業や漁業も盛んであり、高齢者の方たちが元気で活気あふれる街です。		

## 2 活動の概要

開始時期	2016年4月
実施主体	<input type="checkbox"/> 市町村 <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input checked="" type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他（                      ）
活動内容	認知症カフェの開催、出前カフェ、訪問の実施
活動頻度	カフェは月1回。訪問は適宜。
参加費	100円
運営財源	<input type="checkbox"/> 市町村からの委託 <input type="checkbox"/> 市町村からの補助 <input checked="" type="checkbox"/> 会費・参加費 <input checked="" type="checkbox"/> その他（ 地区社協      ） ※上記の財源 <input type="checkbox"/> 市町村一般財源 <input type="checkbox"/> 地域支援事業交付金 <input type="checkbox"/> その他（                      ）
メンバー構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民サポーター</li> <li>・ボランティアスタッフ</li> <li>・地域包括支援センター</li> </ul>
チームオレンジ コーディネーターの属性	認知症地域支援推進員
チームオレンジの類型 ※1	<input type="checkbox"/> 第1類型（共生志向の標準タイプ） <input checked="" type="checkbox"/> 第2類型（既存拠点活用タイプ） <input type="checkbox"/> 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） <input type="checkbox"/> その他
チームオレンジ三つの基本 について ※2	<input checked="" type="checkbox"/> 3つの基本を満たしている <input type="checkbox"/> 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

### 3 チームオレンジ結成までの流れと経過

2016年3月、地域の関係機関に「認知症カフェ」である「オレンジカフェなみおか」設立の趣旨説明をして協力をお願いした。また、地域住民へは、「オレンジカフェなみおか」がオープンすることを、「波岡公民館だより」で全世帯に広報した。

2016年4月、「オレンジカフェなみおか」が誕生した。

2023年2月、「オレンジカフェなみおか」の取り組みが「チームオレンジ」の活動であるということから木更津市第1号となる「チームオレンジ登録証」が授与された。そこで、「チームオレンジ・カフェなみおか」と名称を変更した。

### 4 活動内容

・毎月1回「オレンジカフェなみおか」を開催して、ぬり絵、折り紙など指先を動かす取り組み・転倒防止、熱中症予防、認知症と入れ歯や栄養について、振り込め詐欺防止などのミニ講座・軽いリハビリ体操・楽器演奏による合唱など、元気を保つためのプログラム活動を取り入れている。

・悩みごと相談を受けて不安の解消に努めている。

・コロナによる緊急事態宣言で「オレンジカフェなみおか」が開催できない時、スタッフが利用者宅を訪問し、いわゆる「出前カフェ」を行い利用者が孤立しないように努めた。





##### 5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

予測していなかったこと、例えば、利用者が椅子から立ち上がる時、転倒して床に頭を打ったこと、コロナに感染して咳き込んでいる利用者が参加しようとしたこと、などがあつたが、南部地域包括支援センターの看護師と相談して対応した。

## 6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

市が開催するステップアップ講座にメンバーが参加し、チームリーダーを担う。

### 【木更津市ステップアップ講座内容】

- 第1回：講座の目的、認知症の基礎知識、木更津市の認知症に関する取り組み、地域の社会資源、家族介護者の思い
- 第2回：認知症の人を理解するための基礎、認知症の早期発見・早期対応の重要性とMCI、コミュニケーションの基本、実習に向けて
- 第3回：実習（市内の認知症カフェに参加）
- 第4回：チームオレンジの活動について、認知症カフェ実習の意見交換
- 第5回：若年性認知症とその支援、実習体験者からの発表

## 7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

### <効果>

- ・利用者より「オレンジカフェなみおかをつくってくれてありがとう」と声をかけられスタッフ一同やりがいを感じた。
- ・利用者は、悩みごとを抱え込まずにスタッフに気軽に相談するようになった。
- ・利用やスタッフの間で連帯感が生まれるようになった。スタッフは利用者との接し方に慣れて利用者の中に積極的に入っていくようになった。
- ・スタッフは、認知症の知識を共有するようになった。
- ・スタッフは、木更津市第1号の「チームオレンジ登録証」が授与されて、活動に誇りを感じるようになった。
- ・地区社協の構成団体として活動資金（年3万円）を受けられるようになった。

### <課題>

- ・アウトリーチ的な訪問のケースがなかなか増えていかない、広報活動に注力したい。

## 8 チームのアピールポイント

- ・波岡公民館地区まちづくり協議会と連携して認知症の学習会を開催している。
- ・オレンジカフェ終了時や訪問後は必ず反省会を開催して振り返りを行い、次の取り組みに反映させている。
- ・南部地域包括支援センターとボランティアが協働して運営している。

## 9 今後の活動について

- ・ボランティアスタッフが高齢化しているので若手の育成が急務である。
- ・チームオレンジの紹介と利用を、「波岡公民館だより」「波岡東地区民生委員会」「大久保団地自治連合会」「一人暮らしのバスハイク」などで文章を添えて呼びかけていきたい。
- ・高齢者が孤立しないように、気軽な話し相手となれるように広報活動に力を注いでいきたい。

# 木更津市②

チーム名 【 チームオレンジ・カフェはたざわ 】
タイトル 【 いつまでもみんな元気で、笑顔で過ごしたい 】

## 1 自治体情報（令和6年1月1日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
136,843 人	37,820 人	27.64%	138.90K m <sup>2</sup>
木更津市は こんなところ！	木更津市は房総半島中央部にあり、東京湾に面した千葉県の実業核都市です。東京湾アクアラインでの交通の便も良く、潮干狩りやアウトレットなど観光地としても有名です。温暖な気候で過ごしやすく、農業や漁業も盛んであり、高齢者の方たちが元気で活気あふれる街です。		

## 2 活動の概要

開始時期	令和5年7月10日
実施主体	<input type="checkbox"/> 市町村 <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input checked="" type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他（                      ）
活動内容	認知症カフェの開催
活動頻度	月1回
参加費	100円    （スタッフは年会費1000円）
運営財源	<input type="checkbox"/> 市町村からの委託 <input type="checkbox"/> 市町村からの補助 <input checked="" type="checkbox"/> 会費・参加費 <input checked="" type="checkbox"/> その他（寄付金） ※上記の財源 <input type="checkbox"/> 市町村一般財源 <input type="checkbox"/> 地域支援事業交付金 <input checked="" type="checkbox"/> その他（地区社会福祉協議会からの補助金）
メンバー構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の人とその家族</li> <li>・地域住民</li> <li>・ボランティア（ステップアップ終了者含む）</li> <li>・地域包括支援センター職員</li> </ul>
チームオレンジ コーディネーターの属性	地域包括支援センターの認知症地域支援推進員
チームオレンジの類型 ※1	<input checked="" type="checkbox"/> 第1類型（共生志向の標準タイプ） <input type="checkbox"/> 第2類型（既存拠点活用タイプ） <input type="checkbox"/> 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） <input type="checkbox"/> その他

チームオレンジ三つの基本  
について ※2

■3つの基本を満たしている

□3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

### 3 チームオレンジ結成までの流れと経過

この地域は認知症カフェが無く、住民サポーターより新しく立ち上げたいニーズはあったが場所がなく難航していた。そんな時、包括を運営する法人が移転新設され「地域交流スペース」を利用できる事となり拠点に決まった。リーダーが同志を集め、それぞれが所属する地域、サークルや老人会で声掛けを行い15名程のスタッフが集まった。打ち合わせや話し合いを重ね、広報誌などで周知活動も行った。年間の役割分担表を作りみんなで協力しながら楽しい時間を過ごせるよう心掛けている。現在2周年に向けて頑張っている。

### 4 活動内容



認知症に限らず子供からお年寄りまで誰でも集える住民同士の交流の場の提供  
イベント内容は月替わりで

- ・健康体操、合唱、クイズ、ボードゲーム、折り紙、塗り絵、フラダンス、脳トレ、笑いヨガ
- ・地域包括支援センター職員による講話、介護や医療相談
- ・企業による講演会、健康測定会
- ・認知症メモリーウォークへの参加

## 5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

当初はカフェのイベントの際、スタッフに注意点の告知がなく当日トラブルが発生、連絡方法についてリーダーに伝わっていない、伝えても聞いていない、覚えていないという事態が度々発生していたが、連絡方法を検討した結果、グループLINEを活用して改善することができた。イベントの内容については事前に検討する直接の場が無く毎月の反省会で膨大な時間を要していたがスタッフの予定を合わせて別日に行う事で改善できた。運営はスタッフが中心となり、地域包括支援センターが後方支援の立場から必要に応じてアドバイスをしている。

## 6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

市が開催するステップアップ講座にメンバーが参加し、チームリーダーを担う。

### 【木更津市ステップアップ講座内容】

第1回：講座の目的、認知症の基礎知識、木更津市の認知症に関する取り組み、地域の社会資源、家族介護者の思い

第2回：認知症の人を理解するための基礎、認知症の早期発見・早期対応の重要性とMCI、コミュニケーションの基本、実習に向けて

第3回：実習（市内の認知症カフェに参加）

第4回：チームオレンジの活動について、認知症カフェ実習の意見交換

第5回：若年性認知症とその支援、実習体験者からの発表

## 7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

### <効果>

- ・認知症サポーターステップアップ講座修了のリーダーがカフェの企画・運営に積極的に意見し、近所の方を誘ってくれている。
- ・地域包括支援センターに協力してもらいチラシ作成、様々なところに配布、地域住民にも興味をもってもらえた。
- ・少しずつ周知されていく達成感がメンバーのモチベーションアップに繋がっている。

### <課題>

- ・活動が月1回のみとなっている。
- ・男性のカフェ参加者が少ない。
- ・ボランティアの高齢化。施設内感染が広がった場合開催中止もありえる。送迎があれば参加者増が見込める。

## 8 チームのアピールポイント

- ・陶器のティーカップなど器やコーヒー豆にこだわっている。
- ・チーム員全員、オレンジ色のスカーフを着用して結束力を図っている。
- ・スタッフはお揃いのオレンジのシャツに名札をつけ名前を憶えてもらい、参加者も名前の書いたシールを貼り話しやすい雰囲気づくりをしている。
- ・ボランティア保険に加入することで事故や怪我への備えを行い安心して参加できている。守秘義務を理解しながら参加者が孤立しない声掛けに気を配っている。
- ・認知症の当事者もスタッフとして参加している。

## 9 今後の活動について

- ・近隣と交流がなく引きこもりぎみの高齢者へ直接自宅訪問して話し相手をする出前カフェを行いたい。その中で認知症のある方や家族の困りごとのニーズを把握し、お手伝いや相談相手になる。認知症ステップアップ講座をスタッフ全員が受講する。

# 木更津市③

チーム名 【 チームオレンジ誰でもサロン 】
タイトル 【 ~ 老いても、病気や障がいをもっても、 その人らしく地域で暮らし続けていけるように ~ 】

## 1 自治体情報（令和6年1月1日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
136,843人	37,820人	27.64%	138.90K m <sup>2</sup>
木更津市は こんなところ！	木更津市は房総半島中央部にあり、東京湾に面した千葉県の業務核都市です。東京湾アクアラインでの交通の便も良く、潮干狩りやアウトレットなど観光地としても有名です。温暖な気候で過ごしやすく、農業や漁業も盛んであり、高齢者の方たちが元気で活気あふれる街です。		

## 2 活動の概要

開始時期	令和5年12月20日
実施主体	<input type="checkbox"/> 市町村 <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input checked="" type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他（                      ）
活動内容	認知症カフェの開催、見守り活動、外出支援など
活動頻度	月1回
参加費	500円
運営財源	<input type="checkbox"/> 市町村からの委託 <input type="checkbox"/> 市町村からの補助 <input checked="" type="checkbox"/> 会費・参加費 <input type="checkbox"/> その他（                      ） ※上記の財源 <input type="checkbox"/> 市町村一般財源 <input type="checkbox"/> 地域支援事業交付金 <input type="checkbox"/> その他（                      ）
メンバー構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の人とその家族</li> <li>・地域住民</li> <li>・ボランティア（ステップアップ終了者含む）</li> <li>・地域包括支援センター職員</li> </ul>
チームオレンジ コーディネーターの属性	木更津市役所高齢者福祉課及び地域包括支援センターの認知症地域支援推進員
チームオレンジの類型 ※1	<input type="checkbox"/> 第1類型（共生志向の標準タイプ） <input checked="" type="checkbox"/> 第2類型（既存拠点活用タイプ） <input type="checkbox"/> 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） <input type="checkbox"/> その他

チームオレンジ三つの基本  
について ※2

■3つの基本を満たしている

□3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

### 3 チームオレンジ結成までの流れと経過

2016年より、井戸端介護のスタッフと、長年、地域で精神保健福祉ボランティアとして、当事者研究をはじめ活動されている方がボランティアで始めた。

最初のはじまりは、家から出たがらない、引きこもっているおばあちゃんがお茶を飲みに来れるように、少人数でサロンをはじめようという企画した。誰でもどうぞと、サロンを開いてきた中で、精神障がい当事者、介護をしているご家族、子育てをしているお母さん、若年性認知症当事者、県の若年性認知症支援コーディネーター、民生委員、社協、ケアマネ、福祉関係者、地域包括支援センター職員など、その時々、縁があった人が誰でも気軽に来て過ごせる居場所になった。

2023年、誰でもサロン運営メンバーが認知症サポーターステップアップ講座を受講し、2023年12月、チームオレンジとして登録した。

### 4 活動内容



SINCE 2016

チームオレンジ 誰でもサロン



「まあまあ、お茶でも一杯どうぞ」

誰かと一緒に 食べるごはんの美味しいこと  
TVをみたり 昼寝をしたり  
家で過ごすように、ゆったりと

— 誰でもサロン —

- 〇日時 毎月1回、第3日曜日。または第4日曜日に開催しています。  
10:00～16:00 出入り自由です。
- 午前中は「お昼ごはん作り」、午後はお茶菓子の楽しみながらのんびりとした時間です。手伝ってもよし、寝てもよし。気楽にお越しください。
- 〇場所 ぽっぴん館 本郷市中央1-4-11
- 〇参加費 ごはん代100円(お茶菓子のみ100円) 差し入れ歓迎

せいで、病気が障がいをもって、その人らしく、  
地域で暮らし続けていけるように

誰でもサロンは、介護保険や制度に拘束なく、障がいがある人が自分も気軽にきて楽しめる活動です。  
介護をしているご家族がほっと息をきかせたり、悩み話を話せたり、介護や福祉の現場で働いている人たち、  
認知症サポーター、地域のボランティアの方々と一緒にサロンを営みながら、  
2023年よりチームオレンジの名称のひとつとして活動しています。

【問い合わせ先】 ぽっぴん館 0426-77-7997 【協力】 本郷地域福祉支援センター

月1回、デイサービスが休みの日曜日を利用して、10時～16時出入り自由で開催。午前中はお昼ごはん作り、午後はお茶菓子をつまみながらゆっくりと過ごしている。手伝いたい人が手伝い、ソファで寝ている人も、お話をしている人もいる。

午後は、参加者の高齢者の人が歌を歌ったり、紙芝居をしたり、若年性認知症当事者の人がフルーツを吹いたり、東京から介助者と一緒に参加している重度の脳性麻痺の人は、自分の自立生活を発表したり、「ありのままの私」を表現する場にもなっている。  
～季節の野菜や食材をたくさん使った手作りのごはん～

「今日のメニューは何かしら」

「美味しそうな匂いがしてきたよ」

海苔巻きを巻いたり、餃子や春巻きを包んだり、ハンバーグを丸めて焼いたり、コロッケを作ったり。参加者の人たちに手伝ってもらいながらごはん作りをしている。

当日来れない人は、お弁当にして家族が持ち帰ったり、お弁当を持って訪問したり、様子を見に行くこともある。

## 5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

- ・運営メンバーが、食品衛生責任者講習を受講し、食品の扱い、除菌、消毒は徹底している。
- ・次回サロンのお知らせを、運営メンバーが、事前にそれぞれ声かけや連絡をしているが、当日にならないと、参加者が何人くるかわからないため、お昼ごはんの準備が大変である。多いときは30食になることもある。
- ・初めて参加しても、緊張しないように、声かけや、話があいそうなひとを繋いでいる。
- ・金銭的に余裕のない方からは、参加費をもらっていない。代わりに食器洗い等、お手伝いできることを協力してもらっている。

## 6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

市が開催するステップアップ講座にメンバーが参加し、チームリーダーを担う。

### 【木更津市ステップアップ講座内容】

- 第1回：講座の目的、認知症の基礎知識、木更津市の認知症に関する取り組み、地域の社会資源、家族介護者の思い
- 第2回：認知症の人を理解するための基礎、認知症の早期発見・早期対応の重要性とMCI、コミュニケーションの基本、実習に向けて
- 第3回：実習（市内の認知症カフェに参加）
- 第4回：チームオレンジの活動について、認知症カフェ実習の意見交換
- 第5回：若年性認知症とその支援、実習体験者からの発表

## 7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

### <効果 参加者の声>

- ・鬱で長くひきこもっていた人がサロンに出てきて、人と交流できるようになった。
- ・家だと誰とも話さない、一人だとあまり食べない、サロンに来ると野菜が多い、ごはんが美味しくて、気づいたら完食してた。意欲、食欲が出てきた。
- ・ここに来ると顔なじみの人たちがいてほっとする。悩みを聞いてもらえて、気持ちが楽になった。明日もなんとかがんばろうと思える。
- ・家で寝込んでいる家族の分も、お弁当にしてもらえて助かる。サロンに来れなくても話すきっかけになる。

### <課題>

- ・会場は木更津駅から近いので、参加者には自力で来てもらっていますが、どうしても来れない人は送迎している。
  - ・参加者が多いと、駐車場が足りないなので、近隣のコインパーキングに停めてもらうようにしていますが、金銭的に余裕がない人もいるので、駐車場をどうするか。
- サロン当日だけ、近くの旧木更津市保健相談センター駐車場が借りれるようになる。

## 8 チームのアピールポイント

「老いても、病気や障がいをもっても、その人らしく地域で暮らし続けていけるように」  
「困ったときは、お互いさま」を愛言葉に、誰でもサロンは毎月開催、活動している。  
木更津はお祭りが盛んで、夏の一大祭り「やっさいもっさい」にも「どたばた連」（市内の高齢、障がい福祉関係者、当事者が参加できる連）として参加できる連があるので、サロンのメンバーを誘い、顔なじみの関係性が続いていくように、つながり続けている。  
出逢わないと相手の困りごとは見えてきません。  
「あの人元気かな、最近調子はどう？」気にかけてあうことで、困ったときに助けあえるように、これからも自分たちにできる活動を続けていきたい。

## 9 今後の活動について

介護で疲れているご家族や子育てで悩んでいるお母さんがほっとひと息できたり、悩みごとを話せたり。それぞれが抱えている悩みやしんどさは、すぐには解決できないことも多いが、サロンでごはんを食べたり、話したり、苦労話を聞きあいながら、「また、来月ね!」と、ゆるんで帰られる姿をみていると、続けてきてよかったなと感じている。

誰でもサロンは、介護保険や制度に関係なく、縁があった人が誰でも気軽に来て過ごせる居場所である。介護や福祉の現場で働いている人たち、認知症サポーター、地域のボランティアの方々と一緒にこれからもサロンを開き、行政や地域包括支援センターと連携しながら、チームオレンジの拠点のひとつとして活動していきたい。

担当部署

千葉県健康福祉部 高齢者福祉課 認知症対策推進班

住 所 〒260-8667 千葉県千葉市中央区市場町1番1号

電 話 042-223-2237

ホームページ <https://www.pref.chiba.lg.jp/koufuku/shien/ninchishou/supporter-caravan.html>